

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人 六峯会		
事業所名	グループホーム グリンピースあま城 かがやき		
所在地	岡山県倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成25年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は緑が多く四季の移り変わりを感じ散歩が出来る環境です。玄関を出たら左右が菜園でご利用者と職員で世話や収穫し食卓に上がります。昔取った杵柄で教えて頂く事も多々ある。3食は手作りの提供で、出来る人には手伝って頂いている。まな板の音、煮物、焼魚の臭いでメニューを想像され楽しみの一つにもなっている。夏祭り、クリスマス会の行事には、ご利用者、ご家族、地域の方々と職員も一緒に食事を楽しみ、親睦を深める機会をもっている。又ご家族、親戚の方が来訪し易い雰囲気作りや、コミュニケーションに努めている。職員は親の介護経験者も多くご利用者の気持ちに寄り添った介護が出来ていると思う。「お口からの介護」に力を入れ歯科医、衛生士の来訪で口腔内の不都合には早い対応ができています。各ユニットに看護婦の配置があり健康管理や医療連携に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は倉敷市街地の南に位置し、緑に囲まれた環境である。地域との交流は深く、地域の方を招いて親睦を深める機会を設けている。秋祭りに子供神輿が訪れたり、地域の清掃奉仕に参加したり、盆踊りを楽しんだり、近隣の施設のイベントに参加したりと繋がりを持って生活ができる様努めている。入居者は朝食後のひと時、事業所内の大きな泰山木の木陰に集って、花壇の花や菜園の野菜を観ながら朝日を浴び、談笑している。本人のリズムや能力に応じて、本人の想いを大切に介護を受け、穏やかに生活を送っている。事業所の行事を兼ねて運営推進会議を開催し、多数の方が参加しやすい工夫をしている。秋とはいえまだ夏の暑さが残る日、何事も真剣に取り組む事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの想いを大切にしながら今の生活に近づける」の理念を踏まえ、入職時に「理念カード」を渡し共通認識に努めている。又、職員はお一人ずつの個性を尊重した対応に努めている。	職員は個々に「理念カード」を持ち、毎月の内部研修にて話し合うことで意識付け、認識を持って実践できる様、努めている。入居者の個性が尊重され、想いを考慮に入れた対応が出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年のお祭りには神輿が入り触れ合いがある。地域の盆踊りや公園、溝掃除に住民と出させて頂いている。隣の施設の作業者とリサイクルや花の苗の購入、駐車場の都合をつけ合ったり等での交流ができています。	秋祭りに子供神輿が訪れ、盆踊りを楽しみ、清掃奉仕に参加して地域と繋がりを深め、駐車場、花の苗の購入、リサイクル品の交換等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で困難事例や認知症の対応の話し合いの場を持ち意見交換はできている。地元の方が相談に来られ、地域包括支援センターと相談をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月での運営推進会議では、各分野からの出席がある。留任の方も一層のご理解を得ている。当ホームでの取り組み、現状報告又、困っている事の報告を行って意見も聴かせて頂いている。	年6回開催し、家族、地域包括、地域の方々等が出席されている。活動の取組み、現状報告、困難事例、認知症の理解、防災対策などを協議してサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターからの出席又、毎月の介護相談員さんの派遣を受け入れご利用者の話を個別に聴いて頂き、報告を受けている。市からの研修も参加できており、不明な事を電話相談している。	地域包括の方には運営推進会議に出席してもらい、実状を報告し、意見を聴いている。市の介護相談員を受け入れ入居者との交流を支援している。倉敷市から案内がある研修に参加して協力関係を築く様努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在のご利用者の状況から残念ながら玄関の解錠が出来ていないが、解錠に向けての検討は行っている。無意識にしている態度や言葉は無いかな等を内部研修で話し合い、一人ひとりの意識を高める機会をもっている。	内部研修にて身体拘束についての行為について話し合い、理解し、認識を持って対応している。困難事例に関してはカンファレンスにて行動分析し、対策を検討して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての内部研修を行い、各職員が意識をもって日常のケアに取り組んでいる。日々の生活の中でご利用者の表情、身体的な異常の早期発見に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用をされている方が一人居られる。必要時は制度の利用を考えていきたい。研修にも参加しておりスムーズな対応へと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書、同意書等の説明をし、質問、疑問、不安を話せる時間を設けている。納得の上でサービスを利用して頂いている。契約内容に変更がある度に説明し捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又ご家族等の来訪時には、ゆっくりと話が出来る環境を心掛けている。苦情受付窓口を設けてご意見を受け付ける体制を作っている。	意見箱を設置し、苦情窓口を設け、意見要望を聴く機会を設けている。また運営推進会議時や面会時等に意見を聴いている。月1回、行事予定と便りを家族に配布して意見を聴く機会を設けている。	
11	(7)	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの毎月1回のミーティングでは、ホームの現状や職員の想いについての意見を出し合って解決への体制に努めている。又、必要時には代表に伝えている。	毎月行われる各ユニットのミーティングにて職員の意見、提案を聴く機会としている。職員と管理者は何でも話し合える関係にあり、行事運営等、日常的に意見・提案を交わしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件に関して、職員の声や勤務状況を評価し上司と改善に向けて取り組んでいる。職場では自己評価、自己目標の記入から、やりがいのある職場環境へ取り組み中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の行事研修計画を元に毎月のミーティングを行なっている。外部研修への参加も行っている。又、日々の介護の場面での問題を話し合い対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡協議会、ケアマネ交流会他への参加ができる機会を作り、交流の輪を広げサービスの質の向上へと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集や今までのプランを頂き継続する事に留意している。ご本人、ご家族の要望を全職員が把握し関わる様に準備している。又、入居前にホームの見学を勧めホームの雰囲気や職員の様子も観て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂き、環境や雰囲気、職員の様子を観て頂き、要望、不安な点をゆっくり聴く時間を持っている。ホームの方針等を説明し話し合い理解が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネからの情報を含め、相談受付時に御本人、ご家族の要望でどの様な生活を望み、どの様にしたいのかをしっかりと話し合い合意が得られるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の体調に合わせ、持てる力を日常生活に出せる声掛けをし洗濯物たたみ、食事作り、掃除、菜園の世話等をできる人と一緒にしている。食事やお茶の時には、一緒に座り談話をして楽しい時間となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見、夏祭り、外出等でご家族が参加できる場を作り又、訪問しやすい場所へと努めている。他医療機関への受診時にも同行の協力をお願いできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供、ご近所付き合いのあった方の訪問や電話、そして、姉妹、親子での外出等の継続はできているが特定の方となっている。入居前の生活状況を把握して交流の機会が持てる様にと支援していきたい。	散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わすことにより馴染みの関係が出来ている。行きつけの美容院へ行けるよう支援したり、盆・正月の帰省、墓参り、電話の取次ぎ、外出等、家族との繋がりが途切れない様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の特性を考えて話しやすい人、気が合いそうな人との席にしたり又、コミュニケーションがスムーズになるよう職員が入居者間の中に入り楽しい時が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも入院先へ見舞ったり、又ご家族がホームに寄って下さったり、相談の電話も入っている。同法人の老健に移られた方とは度々、訪問して交流は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「行きたい所、食べたい物、したい事、好きなこと、嫌いな事、不安な事、困っている事」等を各々の人の想いをゆっくり聴く時間を心掛けている。ご家族からの情報入手にも努め職員間での情報の共有に努めている。	入居者の習慣、特質、性格を考慮に入れた声掛けにて、思いや意向を汲み取っている。日頃の関わりを深め、自分の想いを表出しやすい様に心がけ、希望や意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族やケア関係者からの情報を基に職員間で事前に把握し、ご本人の生活スタイルを尊重したケアプランとしている。ご持参物も馴染みの物の持参をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、生活歴、性格等の情報に基づいて、持てる力を生活の中に出せる様に声かけをし一緒にしており、思ったより出来たり、出来なかったりの状態の把握に努め、次のステップに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を基にカンファレンスで、職員の気付きを出し合って介護計画に反映し、ケアが統一出来るようにしている。何か問題があればその場で話し合っって対処する様にしている。	入居者、家族の希望を聴き取り、「介護記録の気付き」から本人の要望を捉えて課題とし、具体的なサービスに繋げている。介護記録に掲載して統一した介護を目指している。3か月に1回モニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録にサービス内容が記入しており、計画に基づいてのケアが出来ているかがモニタリングしやすい。状態の変化時にはサービス内容の変更を行いご家族に説明をして、同意を頂いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望に応じるには体制的には難しい面があるが、他ユニットと協力して臨機応変にと考えている。時には職員がボランティアで、ゆっくりと要望に応じている。少し遠出の一日旅行はとても喜んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の資源についての情報を得ることも多い。地域の消防団員さんからの協力体制も得られた。地元の職員も多く地域との繋がりへと力になっており、地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、家族の希望でかかりつけ医が決まっており、現在3か所からの往診を受け入れている。又 ご家族の要望を基に緊急時の搬送先を第3希望まで確認している。緊急時の連絡体制も出来ている。	入居者や家族の希望により、かかりつけ医に受診や往診ができる様支援している。緊急時の搬送先を確認し、万全の態勢を取っている。協力医である大森院長の健康相談が月4回と歯科衛生士の口腔ケアが週1回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	両ユニットに看護師の配置があり、24時間のオンコール体制で急変時への対応が出来るようになってきている。他医療機関への受診時には状態報告書と、日々のバイタルデータを添付している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報提供をしている。入院中の様子を医療相談員さんを通して把握をしている。又病室訪問もしている。退院に向けての調整や、事前の情報入手でケアプランの反映に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期に向けての対応について説明し、又その都度に話し合い、相談をする事で同意を貰っている。主治医により異なるが24時間の診療対応の体制を取っている利用者の方もおられる。	入居契約時に終末期の対応について説明し、またその都度話し合い同意を得ている。経口摂取が不可となれば重度化とみなし、対応に係る計画を作成している。主治医の医療連携が整い、看護師配属にて看取りをする体制は出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に内部研修を行っている。又、AEDを設置しており緊急時に対応できるように講習を受けた。吸引機はすぐに使用できるように設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・消火訓練を実施しており、夜勤帯を想定した訓練も行っている。消防署からの指導を依頼し実習を行った。近隣や運営推進委員の方々のご理解を頂き、今後に向け定着した協力体制へと努めている。	消防署の指導により地域住民も参加し、年2回避難訓練を実施している。避難、防火に関するマニュアルは作成されている。スプリンクラー等の防火設備は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重、守秘義務について内部研修を行い意識付けを行っている。職員の都合ではなく、ご利用者の今の想いを尊重しての対応に努めている。	本人のリズムに合わせた対応を心掛け、希望を尊重した介護を実践している。談話の時間を作り、本人の想いが聴けるよう支援している。プライバシーに関する勉強会にて職員意識づけを図り、対応に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒にお茶や食事をしながら談話の時間を持っている。「どうされましたか？ どうしましょうか？」の問いかけの会話に留意している。何でも気軽に話せる関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に考慮し、ご利用者の生活リズムに合わせ又、出来る限りご利用者の希望に合わせた過ごし方を優先している。急に散歩に付き合うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自らが毎朝お化粧をされる方も数人おられ、服も選んでおしゃれな人も居る。しかし季節に合わない服装の人も有り、その時は一緒に選んでいる。ホーム以外で行きつけの美容院へ出かけられる人もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回ではないが「食べたい物がありますか？」と聞きメニューが決まる事もある。誕生日には好みのメニューになる。ホームの菜園へ食材と一緒に取りに行き、下処理をしながら昔の話に及ぶ事もある。毎月の外食時には予想外の食欲に驚く。	誕生日には本人の意向を取り入れた献立にしている。事業所にある菜園で季節の野菜作りをして収穫し、食材の下準備を手伝うことで食への楽しみに繋がっている。時には外食を楽しんでいる。歳時記に合わせた献立を作り、季節感が味わえる様支援している。	食事を楽しむたくさんの支援をされているが、食卓に昼食のメニューが分かる物でもあれば、更に食への楽しみが広がると思う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の病歴、体調に合わせた食事内容にしている。粥食、小刻み、ミキサー食、トロミ等の対応をしている。一日の摂取量を記録しており不足傾向が判り、早目に対処している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の「うがい」と毎食後の口腔ケアには力を入れている。週1回の歯科衛生士の来訪で口腔管理指導がある。又、2週に1回の歯科医の来訪で必要時には指導と治療を受ける体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄データを基に排泄リズムを知り、声かけをしている。又、ご利用者の仕草での察知にも努めている。トイレで気持ち良く用が足せる支援をしている。	一般的なトイレ表示を行い、トイレ内に使用方法を書いて自立を促し、社会性が保てる様支援している。座位が可能であれば随時誘導をしてトイレ介助をしている。排泄表を基に声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の好みに合わせ起床時に、牛乳かお茶を提供している。食事時のお茶が残らない声掛けで水分摂取には留意している。野菜が十分に採れるメニューとし又、散歩に出掛ける機会をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回の入浴を基本に、その日の体調や気分で臨機応変に午前や午後にと入浴できる対応をしている。プライバシーを守り、1対1でゆっくり向き合える大切な時間となる方もいる。	本人の体調、希望により入浴の時間帯が融通できる様、柔軟な対応をしている。拒否時には清拭や日時を変更して個々にそった支援をしている。下肢に浮腫が看られれば足浴の支援をし、季節になれば柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の疾患に合わせ、日中に休息を要する方には短時間の臥床へ声掛けし、夜間の睡眠に影響しない様にしている。日中の生活パターンとなる関わりへ支援している。夜間帯はトイレに灯りを付け安心して行かれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬包に氏名、月日、用法の印字があり確認しやすく、服用までに3回の確認を徹底している。服用されるまでは見守っている。薬情報を、毎日使用する各個人記録の前に綴じてあり、いつでも見られる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活状況や得意とされる事をご家族より聞き又、フェースシートの情報を基に無理強いしない様に職員と一緒にしている。三角布、エプロンをして台所に立たれると生きいきされた様子が観られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺への散歩や買い物、外食は出来るだけ希望に応じるようにしている。年度計画でご家族との花見、夏祭り、そしてドライブに出かけている。環境が異なると話題も豊富で違った一面が分かる良い機会となっている。	事業所周辺には散歩コースがあり、能力に応じて季節を感じ取りながら散歩を楽しんでいる。近隣の藤戸荘の藤縁祭や羊の毛刈り、同法人の老健のイベント、由加山へドライブ、与太郎様に参拝等、外出支援をしている。	朝の爽やかな時、少しの日光浴と大きく茂った泰山木の下での談話のひと時、笑顔が見られ普通の生活を楽しんでいる様子が伺えるので、継続して支援して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっている小使いから、欲しい物がある時は一緒に買い物に出掛けている。自分で選んで決められる様に、支払いも自分でして頂ける支援をしている。現在、ご自分で現金を管理されている方がおられ好きな物を買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話への支援をしている。ゆっくり話が出来る環境へ配慮している。ご家族、知人からの電話で外部との交流も続いている。今年は手作りの押し花で暑中見舞を作り、宛名書きの支援をして投函した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物やご家族の写真、自らが作成された作品を飾り話題に繋がっている。職員持参の季節の花も入っている。一人でゆっくりしたい時には、ソファや少し離れた所に小部屋もあり自由に寛ぐ環境はできている。	玄関先には花壇や菜園があり、季節の花が咲き競い、季節感が感じられる。居間は高い吹き抜けの天井で広々としていて、落ち着いて生活出来る様工夫されている。気の合った仲間が和気あいあいと過ごせる様席にも配慮を示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を定める時に、話の合いそうな人又、あまり関わりを好まれない人等の性格を十分に考慮した所定の席はある。他に自由に入出りできる小部屋や、ソファで寛いだり、隣のユニットにも自由に往来が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、今まで使用されていた馴染みの物を持参して頂くように話している。居室ごとに壁紙、カーテンの柄が違えてあり各部屋の趣が違っている。ベットの位置はその方の使い勝手が良い方向に設置してある。	居室ごとにカーテンの色、柄、壁紙を変え、自分の部屋が分かる様配慮している。採光、本人の能力、安全を勘案してベットの位置を決めている。本人作成のフラワーアレンジメント、家族の写真、時計等を飾り、居心地良く過ごせる様工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入口には氏名と、それぞれ異なった花の絵が付いて覚えやすくしてある。壁側には手すりがあり安全に移動が出来るようになっている。又、呼び出しコールをその人が使いやすい物で「カスタネット」にしている人もある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人六峯会		
事業所名	グリーンピースあま城 あさひ		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	平成25年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成25年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周辺にはポツポツと家が建ち風景は少しずつ変わって来ていますが、まだ緑の多い恵まれた地域です。季節の行事や清掃活動にも参加させていただいたり当ホームのイベントにも声掛けをして参加していただいたりで交流は続いています。特に秋祭りの子供みこしは皆さん楽しみにされていて庭に出て子供たちを待ち一緒に写真を撮ったり握手をしたり思い出の一日です。食事は毎日買い物に行き手作りの物を提供しています。又家庭菜園で作る野菜はすぐにメニューに加わり一品になります。毎月の外食も合わせ食べる楽しみを持っていただきたいと考えています。ボランティアの方が良く来て下さり大正琴、フラダンス、オカリナ、舞踊、押し花など楽しみがたくさんあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの思いを大切に今までと変わらない生活をしていただける様理念を踏まえ毎月の内部研修で認識を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには子供みこしが入り触れ合いがある。地域の盆踊りや公園、溝掃除は住民として参加隣の施設の方ともペットボトル、ダンボールの提供などの協力、花壇の花などを頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で家族の方も交えて認知症の対応、困難事例など話し合って意見交換している。当ホームの理解も深めて頂いて必要時の協力もお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営会議では他方面からの参加を頂いて、当ホームの取り組み現状報告を行い意見も聞かせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括から参加して頂き又毎月の介護相談員さんの派遣を依頼し利用者の個別の話聞いて頂いている。又花見や夕涼み会にも来て頂き普段とは違う利用者さんとの交流もして頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在ご利用者様の状況から玄関の施錠は安全を守るためさせて頂いている。開錠に向けて検討、努力して行きたいと思う。身体拘束はどの様な言葉、態度、行動が拘束となるか内部研修で話し合い勉強をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても内部研修で話し合い意識を持って取り組み日々の生活の中で利用者の早期発見に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が家族や本人の思いを聞き、管理者や職員に伝え、その制度について勉強し知識を吸収、活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、最初の段階で利用者、家族に十分に説明を行い理解して頂いて契約となる。不安、疑問点は、いつでもお受けしている。改定等の時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回行う運営推進会議で委員の方、家族の方を交え活発な意見や要望を出して頂き、それを反映させる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の内部研修で意見を出せる場を作り提案された問題を1つ1つ解決しながら、より良い施設運営につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己研鑽のための、支援はしている。やりがいを持って働けるよう、職員の思いを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を集め、職員に提示、研修を受けてもらい報告書を提出し、他の職員にも、その事を勉強して身につけてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの方に推進委員になって頂いているので2カ月に1度の会議でお互い情報を交換している。又介護相談員の方とも、毎月の来訪で、応援を頂きサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に今までのプランを継続する様にしている。本人、御家族の要望を全職員が把握し関わる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂き、環境、職員の様子を見て頂き要望、不安な点を聴きホームの方針を説明し話し合い、理解が得られる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネから情報を得て御本人、御家族の要望を聞き、どの様にしたいのか、しっかり話し合い合意が、得られる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の体調に合わせて、出来ることを日常生活に出せるよう、声掛けしている。洗濯たため、食事作り、掃除、菜園の世話等を一緒にしている。食事、お茶の時間には一緒に談話しながら楽しい時間になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見、夏祭り、毎月の外食など御家族が参加できる場を作り訪問しやすい場へと努めている。又他医療機関への受診にも同行の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御近所付き合いのあった方の訪問や電話、そして夫婦、姉妹、親子での外出は継続はできているが特定の方となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特性を考えて話しやすい人、気が合いそうな人との席にする。又職員が間に入り楽しい時間が持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも入院先へのお見舞い、又相談の電話も入っている。同法人の老健に入所された方へも訪問して交流は、続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい所、食べたい物、したい事、好きな事、不安な事、困っている事等を各自の思いを聴く時間を持つようにしている。又ご家族からも情報を入手するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族、ケアマネからの情報を基に職員間で事前に把握し利用者様の生活スタイルを尊重したケアプランとしている。又馴染みの物の持参をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、生活歴、性格の情報を基に持てる力を生活の中に出せる様に声掛けをし、一緒にして思ったより出来たり、出来なかつたりの状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を基にカンファレンスで職員の気付きを出し合って介護計画に反映しケアが統一出来る様にしている。何か問題があれば、その都度話し合って対処する様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にサービス内容が記入してあり、計画に基づいてのケアができているかが、モニタリングしやすい。状態変化にはサービス内容の変更を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望に応じるには、体制的には難しい面があるが、他ユニットと協力して臨機応変にと考えている。時には職員がボランティアで要望に応じている。秋の小旅行はとても喜んでいただけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りには自然を感じられる所がいっぱいある。その人のペースに合わせて散歩などをして季節を感じて頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望にそって昔からのつながりを大切にしてかかりつけ医と事業所の連携をとり看護師の24時間対応で支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握し易い様に職員は変化を看護師に伝えている。必要に応じて医療的処理や相談を受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には入院先への訪問、面会をしている。又関係者に状態を尋ね退院後のプランに役立てている。退院日については、病院、家族に合わせていつでも受け入れ出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ターミナルケアについては文書を作成。方針の説明を行い同意をもらっている。状態の変化があった時は、すぐに家族に報告し相談していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の出前講座でAEDと人工呼吸の研修を受け勉強した。応急手当や初期対応も看護師に指導を受けている。緊急連絡網も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、5月には災害対策に力を入れ消防署の方に指導を受けてきた。運営推進会議の時にも協力を得て訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの立場に立って、人格を尊重し、プライバシーを守ってケアを、実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の人に自己決定をして頂ける様声掛けをしている。本人の思い希望は小さな事でも聞く様にしており、表現できる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の暮らしの基本はあるが、職員の都合ではなく、その人のペースに合わせ、一人ひとり、ゆっくりと過ごして頂ける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度から始まり洋服選び更衣、身だしなみを整え一日気持ちよく、過ごして頂く。又入浴の着替え外出の時の洋服も一人ひとり、相談しながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるという事は大きな楽しみなので一人ひとりの好みを聞いてメニューを決め買い物に行き野菜の下処理など一緒にしている。又外食も趣向を凝らし、色々な所へ出掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態は個々に合わせ調理している。毎日の献立は栄養士が立てた物を参考にバランスの良い食事作りを心掛けている。水分量は1日の摂取量の表を作り声掛けして細目に摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導、自分でされる方は、見守りにて清潔保持に努めている。毎週火曜日は歯科衛生士による口腔ケアを実施、月2回の歯科医による歯の治療が行われおいしく食べられる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導、介助をしている。自立の方もトイレの時に自尊心を傷つけない様に、パンツを見せて頂き汚染している時は交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニュー作りをしたり1日の水分摂取表を作り十分な水分を摂って頂く。又冷たい牛乳の提供をする。適度の運動、散歩をする。必要時には、主治医と相談して薬剤でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、自分のペースでゆったりと入浴できる様、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活習慣を把握し、本人の状態に合わせて休息を取ったりして、自分の生活リズムを整えられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに看護師がいて薬の管理は出来ている。職員も症状の変化、薬の必要があれば、必ず伝達している。薬剤師を招いて薬の勉強もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、シーツ交換を手伝って下さる人、野菜作りが得意な人、手芸が好きの人、色々な場面で中心になって頂き皆で楽しめる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩、買い物は本人の希望にそって外出。又気分転換にドライブを希望される方などは個別に支援、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっている、小遣いから、欲しい物が、ある時は、一緒に買いものに出掛けている。自分で選んで決められる様に支払いも自分でして頂く様に支援している。現金は自分で管理できる方は、おられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話への支援をしている。ゆっくり話が、できる環境へと配慮している。ご家族、知人からの電話で外部との、交流も続いている。年賀、暑中見舞いが書ける方は、通信出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物、家族や職員と一緒にの写真自らの作成した物が飾ってある。職員持参の季節毎の花も生けてある。ゆっくりテレビを観たい時は、ソファでくつろいで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を決める時、話の合いそうな人、あまり関わりを好まない人、など性格を十分考慮している。所定の席はある。他にソファでくつろいだり自由に過ごして頂ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で今まで使用されていた馴染みの物を持参して頂く様、話している。居室ごとに、壁紙、カーテンの柄が違えてある。ベッドの位置は、その方の使い易い様して頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口には、氏名と、それぞれ、異なった花の絵がついて覚えやすくしている。壁側には、手すりがあり、安全に移動できるようになっている。又呼び出しコールとその人が使い易い物で「鈴」にしている人もある。		